



# 第30回 天文文化研究会

## The 30th Workshop on Cultural Studies of Astronomy

2025年12月20日/21日（土/日）

@大阪工業大学梅田キャンパス または オンライン参加形式

(2025-1218版)

本研究会のページ

<https://www.oit.ac.jp/labs/is/system/shinkai/tenmonbunka/20251220/index.html>

会場39名、オンライン72名（合計111名）の方から参加登録をいただきました。

### 会場参加の方へ

- ★ 会場は、大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町1番45号、6ページに地図あり）です。20日午前は**10階1004教室**です。21日は**6階ラーニングコモンズ**です。  
<https://www.oit.ac.jp/oit/access/index.html#id02>
- ★ 氏名を1階エレベータ前の守衛室に届けてありますので、「天文文化研究会参加」としてカードキーを受け取ってお進みください。
- ★ 昼食は、21階にレストランもありますが、ご持参されることをお勧めします。
- ★ wifiは、eduroamあるいは大阪工業大学のwifi（共用アカウント）をご利用になれます。

### オンライン参加の方へ

- ★ Zoomを用いて双方向の通信をします。Zoomのアプリケーションは無料で入手できます。
- ★ アクセス先はメールにてご案内したものをクリックしてください。
- ★ 聴講される方は、**質問されるときのみ**カメラとマイクをオンにしてください。

### 発表者の方へ

- ★ Zoomにつないでファイルを共有する形で、ご発表をお願いいたします。
- ★ オンラインでご発表される方は、ご発表中はカメラとマイクをオンにしてください。

### Slack

- ★ 資料の共有などはSlackを用います。  
ウェブブラウザ（Safari, Google Chrome, MS Edge, Firefoxなど）上で使えますが、PC用のアプリケーションSlack（無料）をインストールした方が、使い勝手がよいです。
- ★ Slackのアクセス先は、招待状をメールで送信しておりますので、そこからアクセスしてください。『#第30回研究会20251220』というチャンネルを用います。
- ★ 資料の共有のほか、質問、感想、情報提供など、なんでも書き込みを歓迎いたします。
- ★ Slackは有料化され、使い勝手が以前と比べて若干制限されています。無料アカウントでのアクセスが1ヶ月となっているため、今回の研究会チャンネルは2026年1月15日で閉鎖します。

ZoomやSlackに関するテクニカルサポートは十分に行えないことがあります。ご了承ください。

回線状況に起因するネット接続の不具合は対応できませんので、ご了承ください。

# 第30回天文文化研究会 プログラム

日時 2025年12月20/21日（土/日） 両日とも9:40開始

20日の会場 大阪工業大学梅田キャンパス 10階1004教室

21日の会場 大阪工業大学梅田キャンパス 6階ラーニングコモンズ

20日午後は、2階204セミナー室にて日本天文考古学会との合同フォーラム

時間は前後する事がありますので、あらかじめご了承ください。

## 12月20日（土曜） 10階1004教室

### ----- Session 1 -----

9:40 ご挨拶 Greetings

松浦 清（大阪工業大学、会場出席）

Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

9:50 日本の天文学の起源 -天命思想と天文の伝来- 【25分+5分、オンライン】

The origins of Japanese astronomy

竹迫 忍（日本数学史学会）

Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)

概要： 天文は飛鳥時代に伝來したとされるが、その時期や理由は明確ではない。発表では、中国の専制君主(皇帝)による律令制度を日本に導入する過程で、皇帝に代わり専制君主となる「天皇」を思想的に支える天命思想とともに、正方位測量法を含む天文技術や時刻制がその基盤技術として、第一回遣唐使船の帰朝時(632)に伝來していたことを説明する。

10:20 中国暦算学への思想史的アプローチ 【25分+5分、会場】

A historical approach to the Chinese calendar arithmetic

高橋あやの（大東文化大学）

Ayano Takahashi (Daito Bunka University)

概要： 2025年度から3年間、科研費課題「魏晋南北朝期を中心とする中国暦学の多角的研究」が採択され、現在『宋書』律曆志を読解しつつ中国暦法の研究を進めている。本発表では、本発表では、発表者が関わる他の研究を含めて、研究の目的や現状、天文文化との繋がりについて報告する。

10:50 占古書『天機大要』の考察 【15分+5分、会場】

A study of the ancient divination book "Tenki Taiyo"

吉村美香（公益財団法人 研医会）

Mika Yoshimura (Ken'i-Kai)

概要： 『天機大要』は明代に編纂されたと記録があるが、朝鮮半島で『新增參贊秘傳天機大要』が刊行され、代表的な朝鮮の術数書として知られている。しかし先行研究はほとんど無いため、今回、刊行過程や内容、構成などを考察する。

11:10 天文を扱った和算の問題 【15分+5分、会場】

Astronomy problems in Wasan (Japanese Mathematics) exercises

真貝寿明（大阪工業大学）

Hisaoaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)

概要： 江戸期、日本では独自の数学文化が芽生えた。関孝和や建部賢弘らによる一般化された高度な数学の発展がある一方で、吉田光由の『塵劫記』をきっかけに、庶民の数学への関心も確たるものとなっていました。本報告では、庶民が手にした数学書や、神社や寺に奉

納された「算額」から、天文を扱った問題を紹介する。まだ調査を開始したばかりで、発見した問題数は少ないが、今後このような調査により、当時の人々のサイエンス・リテラシーを窺い知ることができると期待される。

#### 11:30 企画展示「天文文化研究会30回の歩みと 生活の中の天文学」のご案内

The exhibition: Commemorating 30 Workshops of the Cultural Studies of Astronomy & Astronomy in Everyday Life

松浦 清（大阪工業大学、会場出席）

Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

鳥居 隆（大阪工業大学、会場出席）

Takashi Torii (Osaka Inst. Tech.)

#### 12月20日（土曜） 午後は、日本天文考古学会との合同フォーラムです。

2階セミナー室 204

プログラム冊子は[\[こちら\]](#)

[https://www.oit.ac.jp/labs/is/system/shinkai/tenmonbunka/2025\\_Umeda/20251220\\_Forum\\_program.pdf](https://www.oit.ac.jp/labs/is/system/shinkai/tenmonbunka/2025_Umeda/20251220_Forum_program.pdf)

#### 12月21日（日曜） 6階ラーニングコモンズ

##### ----- Session 2 -----

#### 9:40 チェンバレンの「羽衣」英訳—「天空」（FIRMAMENT）について【15分+5分、会場】

English Translation of "Hagoromo" by B.H. Chamberlain - Focusing on "FIRMAMENT"

井村 誠（大阪工業大学）

Makoto Imura (Osaka Inst. Tech.)

概要：バジル・ホール・チェンバレン（1850-1935）が『日本風物詩』（"Things Japanese"）で英訳した謡曲「羽衣」を紹介するとともに、「天空」の訳語 FIRMAMENT を中心に東洋と西洋の宇宙観を比較する。

#### 10:00 [招待講演] キリストian布教と西洋天文学の伝来 【50分+10分、会場】

[Invited talk] Christian Missions and the Transmission of Western Astronomy in Japan

平岡 隆二（京都大学）

Ryuji Hiraoka (Kyoto Univ.)

概要：キリストian時代（1549-1650）の日本では、イエズス会宣教師がキリスト教布教の一環として、西洋の天文学知を積極的に活用した。本講演では、こうした知の伝来と翻訳の過程、およびその意味を検討するとともに、禁教後にそれらが日本社会においてどのように継承され、変容していったのかを考察したい。

#### 11:00 幕末期彗星観測における土御門家門人の活動とその影響【15分+5分、会場】

Activities and influence of the Tsuchimikado family in comet observations in late Edo period

岩橋 清美（國學院大學）

Kiyomi Iwahashi (Kokugakuin Univ.)

概要：國學院大學図書館所蔵土御門家文書をもとに、幕末期の同家の彗星観測を支えた門人達の動向を紹介する。これまでの研究（土御門家・幕府天文方・間家の観測技術の比較）において、当該期の土御門家の観測数値が西洋のそれに近いことを実証したが、本報告では

土御門家の観測に関わった門人達の動向を取り上げ、それが土御門晴雄の彗星認識にどのような影響を与えたいたのかを考察する。

#### 11:20 久米通賢と江戸時代後期の彗星観測【15分+5分、会場】

Tsuken Kume and comet observations in the late Edo period

松村雅文<sup>(1)</sup>、栗田和実<sup>(2)</sup> ((<sup>(1)</sup>元・香川大学 (<sup>(2)</sup>館林テレスコープメイキングクラス))

Masafumi Matsumura, Kazumi Kurita

概要：江戸時代後期の讃岐の"シビルエンジニア"であった久米通賢（1780-1841）及び久米による彗星観測を紹介する。久米は、文化4(1807)年及び文化8(1811)年の彗星を観測した。久米の彗星観測と19世紀の他の彗星観測を比較し、当時の彗星についての認識を考察する。

#### 11:40 16世紀オスマン帝国の天文台と1577年の彗星【15分+5分、会場】

Astronomical Observatory of Ottoman Empire in 16th century and the comet of 1577

星 憲一朗（音楽環境研究所）

Ken'ichiro Hoshi (Inst. Music and Environment LLC)

概要：16世紀末オスマン帝国の天文学者タキユッディン（Taqi ad-Din Muhammad ibn Ma'ruf ash-Shami al-Asadi, 1526-1585）に焦点を当て、ヨーロッパ近代科学に先駆けた彼の業績と社会からの天文学への敵視に疲弊していた顛末をまとめ、このような変化がなぜ起きたのかを考察する。

### 12月21日（日曜） 6階ラーニングコモンズ

#### ----- Session 3 -----

#### 13:00 南部絵暦の成立と背景について【25分+5分、オンライン】

The background and history of the Nambu illustrated calendar (Nambu e-goyomi)

荒木田英禎（日本大学工学部）

Hideyoshi Arakida (Nihon Univ.)

概要：南部藩（現在の岩手県の大部分と、青森県下北地方、秋田県の一部）には、文字の読めない人でも理解できるように絵と記号のみで表された絵暦（田山暦、盛岡絵暦）が存在した。本発表では絵暦成立と背景について、南部藩の財政、米の生産高、飢餓状況、識字率、文化的水準の視点から考察し、幕府による暦作成の統制のもとで、なぜ出版を続けられたのかを考えたい。

#### 13:30 Star Village Astronomy Camp (SVAC)について【20分+5分、会場】

Introduction to Star Village Astronomy Camp (SVAC)

久米 毅（奈良県 上北山村）

Takeshi Kume (Kami-Kitayama Village, Nara Pref.)

太田原 章臣（スタービレッジアストロノミーキャンプ実行委員会）

Akio Otahara (Exec. Comm. of the Star Village Astronomy Camp)

概要：2025年の夏休み期間に、奈良県上北山村で開催した天文・宇宙系学習イベント「スタービレッジアストロノミーキャンプ」(SVAC)についての活動報告を行います。SVACは、次世代を担う子供たちに夢と科学へ興味を育む場を提供し、上北山村の満天の星空と素晴らしい自然環境を活かし、学びと感動を通じて奈良県を「アストロツーリズムの聖地」に押し上げる挑戦です。また、学生を含む研究者の発信の場として、未来の宇宙人材を育成する土壤を育むことを目指しています。

13:55 日本国内における公開天文台の通史をめぐる調査報告【15分+5分、オンライン】

A research report on the history of public astronomical observatories in Japan

澤田幸輝（沖縄女子短期大学）

Kouki Sawada (Okinawa Women's Junior College)

（共同研究者は松尾厚・宮本敦・米澤樹・綾仁一哉・井阪あゆみ・井上毅・小野智子・小林俊通・迫千紘・高野敦史・高羽幸・仲千春・平野宗弘・古屋昌美・松岡義一）

概要： 日本公開天文台協会では、2026年11月21日に迎える公開天文台100周年の記念事業として、公開天文台100周年調査・編纂ワーキンググループを設置し、日本国内における公開天文台の通史に関する資料調査・実地調査を実施してきた。本報では、ワーキンググループで実施してきた調査結果の概要と今後の活動方針について報告する。

14:15 濑底島のシヌグについて、天文文化学の視点から考える【25分+5分、会場】

Considering the Shinugu of Sesoko Island from the Perspective of Cultural Studies of Astronomy

北尾 浩一（星の伝承研究室）

Koichi Kitao (Star Lore Laboratory)

概要：2025年9月に沖縄県瀬底島のシヌグについて調査を実施した。シヌグでは、星が歌われている。シヌグに歌われた星についての解釈を行なうとともに、古代から今日までの連続した時間のなかで、星について「語ること」「歌うこと」「踊ること」の意味を天文文化学の視点から考える。

14:45 終了予定（やや延長の可能性あり）

---

謝辞

この研究会は、科研費・挑戦的研究（開拓）「天文文化学の新展開：数理的手法の導入で文化史と科学論から自然観を捉える研究の加速」（代表・松浦清、2024-2028）のサポートを受けて開催しています。

---

ご案内

これまでの研究会の記録は

<https://www.oit.ac.jp/js/shinkai/tenmonbunka/workshop.html>

にてご覧いただけます。

---

ご案内

情報交換用にメーリングリストを作っております。

tenmon-bunka\_AT\_gmail.com

会員間の情報共有、本研究会のご案内などに利用しております。登録ご希望の方は、

真貝(hisaaki.shinkai\_AT\_oit.ac.jp)または横山(eri.yokoyama\_AT\_oit.ac.jp)までお知らせください。

現在登録者数は180名です。

天文文化学ホームページ



勉誠社 天文文化学の視点



思文閣 天文文化学序説



## 大阪工業大学 梅田キャンパス（OIT梅田タワー）へのアクセス

<https://www.oit.ac.jp/oit/access/index.html#id02>



所在地：大阪市北区茶屋町1番45号

- JR「大阪」駅から徒歩5分
- 阪急「大阪梅田」駅から徒歩3分
- 阪神「大阪梅田」駅から徒歩7分
- 御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- 谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
- 【地下街からのアクセス（地下街直結）】  
ホワイティうめだプラザモールを北広場まで進み、ヤンマー本社ビルH-2方向に曲がり地下道を突き当たりまで進む。（JR、地下鉄、各私鉄のすべての駅から雨の日も快適にアクセスできます。）

★入構時は、守衛室にて「天文文化研究会参加」としてご氏名をいただければ、入構に必要なカード・キーが渡されるようにしておきます。